高校球児ピッチャーの「球数制限」に思う

札幌市医師会
中村記念南病院
伊東　民雄

私の数少ない趣味として高校野球観戦がある。日本ハムの勝敗を話題にする人が圧倒的に多いが、一応話は合わせるものの、心の中では高校野球の全道大会が円山球場で始まるとウキウキして必ず最低年３試合は応援に行ってしまう。

今年ほど投手の“投げすぎ”の是非について話題に上ったことはないのではないか。岩手県大会決勝であの163kmを出した大船渡高校・佐々木君の決勝戦での登板回避に対する意見が真っ二つに分かれた。佐々木君が、肩・肘温存のため将来の身を案じて４番打者でもあるのに登板はおろか打者としても出場しなかった“事実”に対してである。

日曜朝にやっている某番組の“喝”で有名な張本氏は真っ向から反対した。そもそも連投に耐えられない体力ならプロでは通用しないと。これに対し、大リーグのダルビッシュらは直ちに投手の肩・肘は消耗品であり正しい判断であると反論した。対策として球数制限や大会日程を空け選手の休養を考慮する案も出てきた。実際今年の夏の甲子園ではベスト８、ベスト４そして決勝を連投にならないよう、初めて一日おきにしている。今年のU18ワールドカップでも初めて球数制限が導入されることになった。以前からメジャーリーグでは100球制限が常識で、オフシーズンも日本のように多く投球練習しないことは有名である。

さて、かくいう私はどうか？　私はやっぱり張本氏を支持したい。複数投手を持たない弱小公立高校は、大船渡の佐々木君や昨年の金足農の吉田君のようなスーパースターが出てきても勝てなくなるのではないか。過去の700球も800球も投げた投手に対する賞賛と感動はなくなるだろう。投げすぎの結果、プロに入ったとしても活躍できず辞めていった投手は枚挙にいとまがない。でも甲子園出場を夢見て努力してきた過程は今後の人生の糧になるのではないか。本心を言うと、一観戦者としては日本独特の夏の風物詩を失いたくないのだ。

そうは言っても、すでに延長タイブレークの導入など少しずつ選手の健康管理の方向へ向かっているのも事実である。でもやっぱり球数制限は感動を奪ってしまう。今日も星稜高校の奥川君の延長14回・165球・23三振に本当に感動したのは私だけではないと思うが…。

でも時代の流れからいって、ここ２～３年以内に球数制限になるんだろうなあ。“感動した”と言って喜んでいるわがままなおじさんは過去の産物になってしまうのか。先行き不安な今日この頃である。皆さんはどう思いますか？

「老後2,000万円」問題

札幌市医師会
さかうえ内科クリニック
坂上　慎二

先日、老後の生活のためモデルケースでは年金以外に2,000万円の備えが必要だという金融庁からの報告が話題となりました。野党やマスコミは政府批判に利用しようとしていましたが、ここで政治的なコメントをしようというつもりはありません。貯蓄がいくら必要かということは、人それぞれでしょうから一概に語れるものではありませんが、老後の生活に不安を持った、という人は多かったと思います。

私の子供はまだ学生ですので、自分が早く死んでしまうと残された家族が心配ですが、働けなくなった年齢になって夫婦二人あるいは一人だけになり、蓄えが限られているとなると、いったいいつまで生きてしまうんだろうと不安になると思います。自分のところに通っていただいている高齢の糖尿病患者さんの中にも、HbA1cが10％以上でも「もういいわ」と治療を受け入れないという方もいます。

役人はこの報告書を出すことによって、投資をして資産を増やそう、と国民に思わせるという魂胆があったという説があります。老後の準備のために投資はひとつの手段として考えるべきものであると思います。しかし、資産を増やそうと積極的に投資しようとなると、そこにつけ込んでだまされる高齢者がいることが、昔からよく詐欺事件として報じられます。犯罪者でない普通の金融機関も手ぐすねを引いています。金融商品を売る方は手数料を稼ぐことを考えていますし、営業マン（レディ）には自分の成績やノルマがありますので、売り手側の都合であたかもいい話であるかのように調子よく説明してくるようです。思考力が鈍ってきた高齢者は、いいお客さんになってしまうかもしれません。最近かんぽ生命のあくどいやり方も報じられました。資産を増やそうとするとリスクを伴います。私の身近にも、勧められるがままに投資して、大きな損失を出したという人もいます。

私は50代になり、今からだと少しずつ積み立てていこうと思っても期間が限られます。でも、20代の頃から年金のことなんか考えてなかったなー。最近ネット証券会社の口座開設数が増えているらしいです。今時の若者はしっかりしているんですね。